

平成26年10月8日

## 竹田さん熊本へ帰郷の送別会

毎月1回大井町会開催の地『紅とん』で盛大にかつしめやかに行われました。



積もる雪に足をとられ、苔を見てこけた話に花が咲き、それでもコケッコーな想い出でした。



大井町会は6人とそれをとりもつお酒が、お酒だけが固い絆でした。



竹田さん(奥さんのみたてに大喜び)から謝札をいただきました



竹田さんへの寄せ書きの布地は古川お母さん(85歳)手製のものです



寄せ書きを持っていつものポーズ 『あいよっ!』懐かしい小島店長



町田会歌『坊がつる賛歌』歌詞を教訓として歌い続ける



人は石垣 人は城 情け味方 仇は敵 仇は敵 唄うは本家本元竹田節



誰も知らない聴いたことのない歌を熱唱、一人ご満悦恋歌



『神田川』『旅人』『岬めぐり』『学生街の喫茶店』と70年フォークを歌い続けました



最後はみんなで竹田節と寄せ書きが一緒に肩組合って『坊がつる賛歌』を合唱



## 坊がつる賛歌

- |  |  |
|--|--|
| 1 人みな花に 酔うときも<br>残雪恋し 山に入り<br>涙を流す 山男<br>雪解(ゆきけ)の水に 春を知る           | 2 ミヤマキリシマ 咲き誇り<br>山くれないに 大船(たいせん)の<br>峰を仰ぎて 山男<br>花の情を 知る者ぞ              |
| 3 四面山なる 坊がつる<br>夏はキャンプの 火を囲み<br>夜空を仰ぐ 山男<br>無我を悟るは この時ぞ            | 4 出湯の窓に 夜霧来て<br>せせらぎに寝る 山宿に<br>一夜を懃う 山男<br>星を仰ぎて 明日を待つ                   |
| 5 石楠花谷(しゃくなげだに)の 三俣(みまた)山<br>花を散らしつ 篠分け<br>湯沢に下る 山男<br>メランコリーを知るや君 | 6 深山紅葉(みやもみじ)に 初時雨(はつしぐれ)<br>暮雨滝(くらさめたき)の 水音を<br>佇み聞くは 山男<br>ものあわれを 知る頃ぞ |
| 7 町の乙女等 思いつつ<br>尾根の処女雪 蹴立てつつ<br>久住(くじゅう)に立つや 山男<br>浩然の気は 言いがたし     | 8 白銀(しろがね)の峰 思いつつ<br>今宵湯宿に 身を寄せつ<br>斗志に燃ゆる 山男<br>夢に九重(くじゅう)の 雪を蹴る        |
| 9 三俣の尾根に 霧飛びて<br>平治(ひい)に厚き 雲は来ぬ<br>峰を仰ぎて 山男<br>今草原の 草に伏す           |  |